

共通の検出法つくる

FD A 調査団 水銀問題で協力体制

水銀マシ問題などを検討する
ため来日中のFDA（米食品医薬
品）調査団は、二十日、水産庁
と日本専門家とで会談、この結
果、どの研究所に送って同時に分析
し、総水銀量やメチル水銀と無機
水銀の割り合いを検出するとい
う。

果、因襲的に共通の水銀検出方法を確立することで意見が一致した。

昨年暮れに突、アメリカで水銀汚染マグロが大きな問題となった。金葉雄の作成についてもWHO

が、そのさい分析結果の水銀量が
目分量で食い違い、たびたび誤差
を生じた。このため、この日の会
談で、日本側は同じサンプルを使
つて数カ国で同時にマクロの分析
を試みることを提案、アメリカ
側もこれに同意した。

具体的には、日本の漁船がとった牛ハダ、ピンチウ、カツオ、メカジキの四種類のマグロ類をかん詰めにしてF.D.A.に送り、F.D.A.でこれを実験用サンプルに作り、日本をそれぞれ二、三カ所の研究所とカナダ、スウェーデンな

この研究所に送って同時に分析し、鉛水銀量やメチル水銀と無機水銀の割り合いを検出するとい

め、各国の専門家が比較検討する。水戸庁では共通の分析方法が確立したら、このあと国際的な安全基準の作成についてもWHO

(世界保健機構)などの国際機関と協力しながら、

皇族名で開かれたこの日の会
議には、FDAのゴルフ食品局次
長ら四人、日本側から大和田水
戸長良、天野慶之東海区水産研究
所保蔵部長、上田喜一東京歯科大
教授、喜田村正次神戸大教授らが
出席した。

熊大で研究したい

水俣で資料調査も

世界的に食糧中の重金属が問題——着目と含み次のように語った。

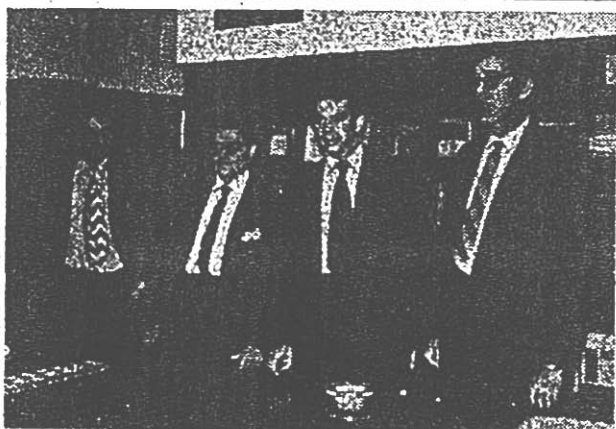
一、私たちは食品の安全性を確保する義務があるので、食品中の重金類の問題について、日本の学者と討論したいと思っている。そのための数回が多い期大とその研究および成果を学びたい。

一行は四時から相本市本庄の
一、先ごろ報道されたメカジキ
相大付属図書館で部分預け、記
を食べたために起こった米商人の

水銀中毒症については、正體な報告を受けていないのはつきり水銀と断言はできない。

一、水銀では臨床的なことより、も學問的な実験や資料をみることになる。

一行は武内医学部教授（第二理學）から水俣病についてスライドや写真で説明を受けた。なお二十六日は午前九時半に水俣へ向かう。



来航した米国FDAの一行